

## 「天の川をめぐる星座(3) ~や座」

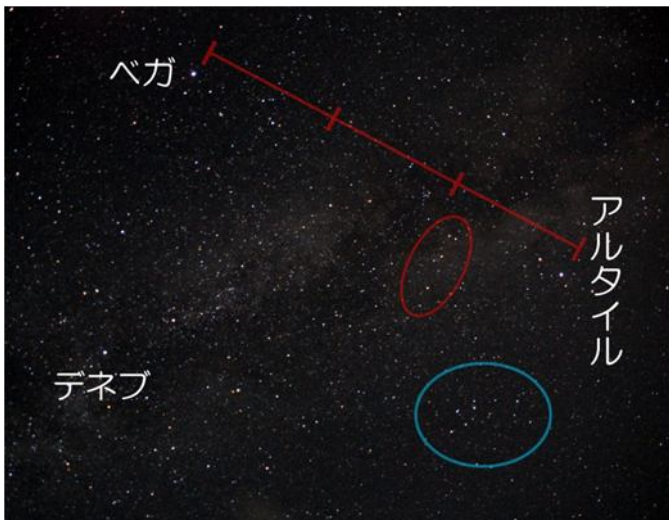
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(文中の写真はすべて北軽井沢 / 撮影; C. Tanaka)

全天88の星座の中で、日本名でひらがな一文字のものが3つある。「ろ座(炉座)」「ほ座(帆座)」「や座(矢座)」である。南天の新参者「ろ座」は形状的には論外で、星座の体を成していない。「ほ座」は巨大な船の星座を4分割したうちの一つである。や座は「一文字星座」の中では、群を抜いてすばらしい。



上写真は、夏の大三角と天の川であるが、この天の川の中に「や座」がある。天の川の写真は、見た目よりもずっと明るく表現されているものが多いが、写真は、空の暗い土地での、ほぼ見た目通りの写真である。



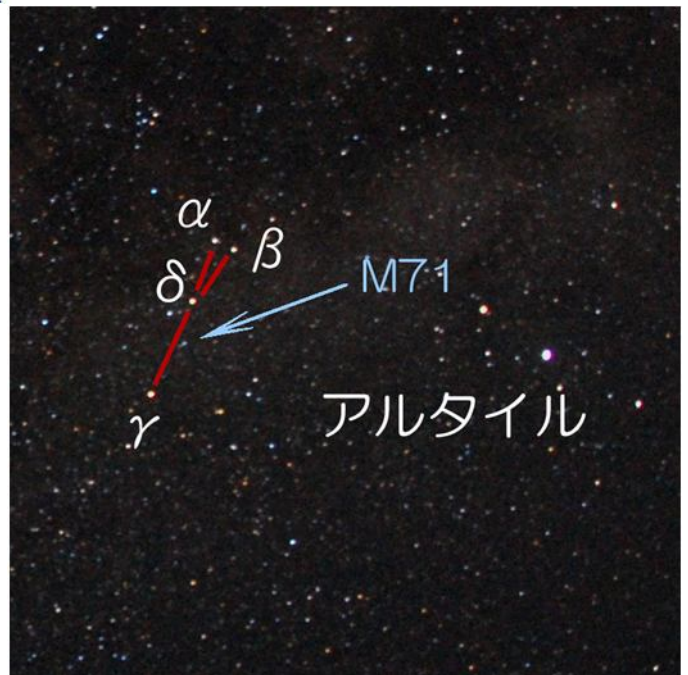
や座は赤○の位置にある。天の川の中で、星が密集している場所なので、ちょっと探しにくい。ベガ(織姫)とアルタイル(彦星)を結んだ線の、アルタイル寄り約3分の1に位置する。「海のカウピット・いるか座」(青○)が、織姫と彦星に放った矢だろうか?

“矢”の正体については、さまざまな説がある。「愛の神エロスの恋の矢」という説。「プロメテウスを苦しめた鷲を、ヘラクレスが射殺した矢」という説……。



しかし私は、「アポロン神がキクロプス(一つ目の巨人)を射殺した矢」という説が一番好きだ。

一つ目の巨人  
「キクロプス」



写真は、や座の拡大写真である。4つの星が「矢」の形を作っている。最も明るいα星(シヤム)でも4.4等級で、暗い星ばかりだが、小さくわかりやすい形にまとまっているので、探しやすい。東京でも双眼鏡があれば、星座全体が視野の中に収まって、確実に観察できる。美しい散開星団M71もあり、小さい星座ながらも、しっかり自己主張しているように見える。古来から複数の文明で「矢の形」として認識されていることから、や座は優秀な星座と言って良い。夏から秋には、ほぼ天頂に見えるや座を、是非見てほしい。